



豆の木モデル：外国人児童生徒等教育を担う
教員の資質・能力モデル

資質・能力の4要素と 課題領域		求められる具体的な力
捉える力	子どもの実態 の把握	文化間移動と発達の視点から、外国人児童生徒等の状況を把握することができる。
	社会的背景の 理解	外国人児童生徒等の背景や将来を、社会的、歴史的文脈に位置付けることができる。
育む力	日本語・教科 の力の育成	外国人児童生徒等の実態等に応じ、言語教育に関する専門的知識に基づいて、日本語・教科の教育を行うことができる。
	異文化間能力 の涵養	外国人児童生徒等と周囲の子どもとの相互作用を通して、双方に異文化間能力を育てることができる。
つなぐ力	学校づくり	保護者や地域の関係者と連携・協力して、よりよい支援、教育のための学校体制をつくることができる。
	地域づくり	異なる立場の人々と協働しながら、学習環境としての地域づくりをすることができる。
変える/ 変わる力	多文化共生社 会の実現	社会的正義と公正性を意識し、多文化共生を具現化することができる
	教師としての 成長	外国人児童生徒等に関する教育・支援活動を振り返り、自己の成長につなげることができる。